



おおさき
探訪
vol.21
サケが帰る川

サケのヤナ漁 ～人口ふ化・放流の取り組み～

晩秋、鳴瀬川や江合川にはサケが産卵のために帰ってきます。海にいる時は銀色をしていた体も、河川に入るころにはうろこが次第に黒ずみ、夕テ、ヨコに紋様ができ、雄は「鼻曲り」と呼ばれる様に、上あごの先端が垂れ下がってきます。数々の障害を乗り越えて産卵場を求めてひたすら川をのぼるサケ。サケが産卵するためには、河床から湧水が出ている砂利地帯などの条件が必要ですが、現在では河川の改修工事などにより、自然のままの地形、環境を保つことが難しくなってきました。

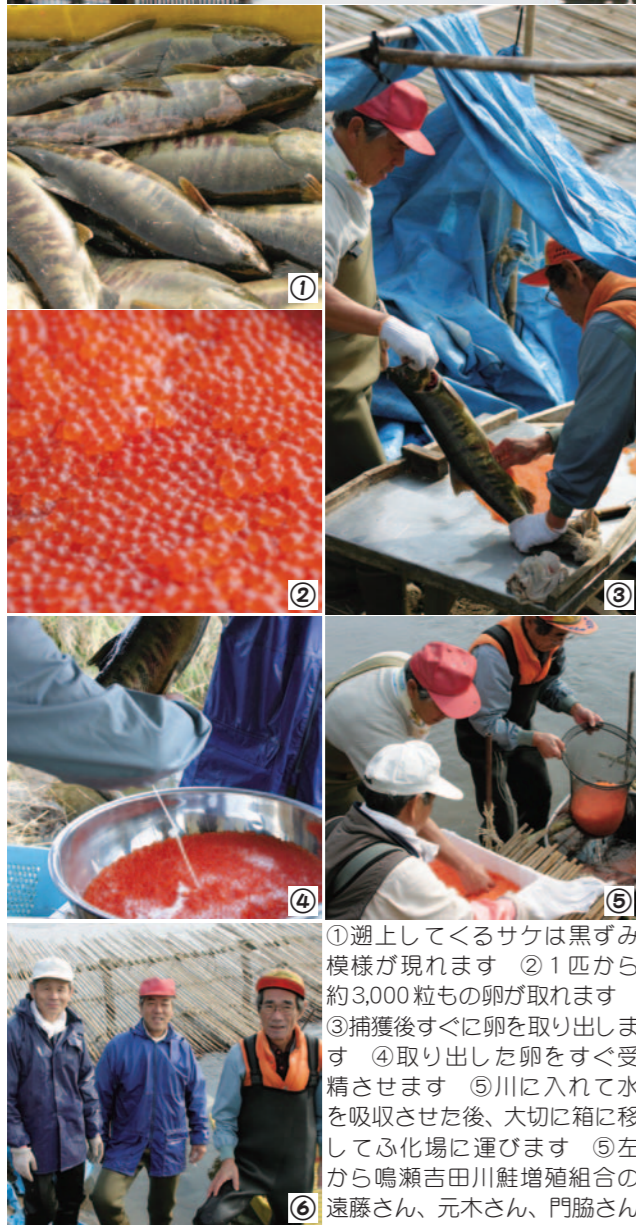
この季節、鳴瀬川の三本木地域桑折江大橋下流では、川幅いっぱい竹を並べて仕掛けたサケのヤナ漁を見ることができます。遡上してくるサケを捕獲し、卵を人口ふ化させるのです。鳴瀬吉田川鮭増殖組合が所属する鳴瀬川水系さけます増殖協会では、毎年600万尾の稚魚をふ化放流しています。

天然産卵が自然環境に左右されやすいのに比べ、人工ふ化場では冬場でも温度変化の少ない地下水等を使い管理するので天然産卵のふ化率を大きく上回ります。育てられた稚魚は、ある程度の大きさに育つと川に放流され、川を下り海に出て、アリューシャン列島海域まで回遊し3～5年後には母なる川に帰ってくるのです。

ヤナ場では組合員の皆さんが、巨体をくねらせ水しぶきをあげるサケを、1匹1匹網ですくいあげます。体長1m前後、約7kgにもなるという大きなサケを一度の漁で何十匹も捕獲するのは大変な重労働です。

「サケが帰る川」を未来に残すための取り組みはこうして続けられているのです。

*河川内では知事の許可を受けなければサケを捕まえることはできません。



①遡上してくるサケは黒ずみ模様が現れます ②1匹から約3,000粒もの卵が取れます ③捕獲後すぐに卵を取り出します ④取り出した卵をすぐ受精させます ⑤川に入れて水を吸収させた後、大切に箱に移してふ化場に運びます ⑥左から鳴瀬吉田川鮭増殖組合の遠藤さん、元木さん、門脇さん



特集 子育て支援
子育て支援施設「大崎市子育てわくわくランド」がオープンします …②
皆さんの大切なお金の使いみち～平成18年度決算の概要～ …⑥
平成19年大崎市表彰式 …⑩
上手な受診で医療費の節約を、住宅借入金等特別税額控除申告シリーズ・DC(仙台・宮城デスティネーションキャンペーン)いよいよ来春開校 宮城県田尻さくら高等学校 …⑫
若者向け就職支援講座、新春講演会・新年祝賀会 冬の安全確保のために、国道108号復旧 …⑭
まちの話題 My Town Topics …⑯
自慢の逸品 田尻ふるさと便 …⑱
情熱大崎 帆船模型作家 岡崎英幸さん …⑲
生涯学習 …⑳～
お知らせ …㉒～
健康・子育て …㉓～

おおさき
探訪
vol.21
サケが帰る川

表紙の写真・鳴瀬川 サケのヤナ漁